

平成22年9月14日

流山市長 井崎 義治 様

流山市行財政改革審議会
会長 井上 菊夫

行政評価制度の外部評価について（答申）

当審議会において、平成22年6月1日の諮問を受け、下記6施策について実施した平成22年度外部評価の結果を次のとおり答申する。

記

1 総論

【評価の前提についての意見】

市のみで出来ることと、市民との協力が必要なこととに峻別をし、各々についての目標を、できる限りグラフや数値を用いて具体的に掲げていただきたい。

各種指標の単位の設定については、市民にとってわかりやすい単位を用いるなど検討されたい。

【評価結果についての意見】

目標未達成の原因分析については、数値等の客観的な事実に基づき、より具体的な説明を検討されたい。

貢献度の高い事務事業について、どの成果指標に貢献しているのかといった関連性が不明確なものが多くみられた。また、貢献度が高いことの根拠を明確にすることを検討されたい。

東葛近隣市と比較できるデータがあれば、可能な限り取り上げ、比較対照を明示することを検討されたい。

評価シートにおいて、結果、原因、課題、今後の方向性が混在して記載

されている。課題に対して具体的な解決方法を見出すため、これらの区分ごとに整理して記載するよう改善されたい。

【今後の方向性についての意見】

「・・・推進していく必要がある。」や「・・・努めたい」等の抽象的な表現から「何を」「いつまでに」「どれだけ」実施するのかなどを具体的に明記されたい。

施策の課題の記載で、施策の評価結果との関連性が不明確なものが見られる。施策の評価結果を施策の課題認識別に活用されることを検討されたい。

「施策の課題認識と改革改善の方向」において、昨年と同じ表現の部分が見受けられる。1年経過しているため、本当に同じ課題や改革改善の方向でよいのかを検証されたい。

【施策の課題認識と改革改善の方向】について、後期基本計画をベースに中長期的な観点から記述することを検討されたい。

施策の課題については、解決すべき優先順位をつけることを検討されたい。

【その他】

施策の外部評価を実施した中で、「事務事業の廃止・見直し等の検討対象とすべき」の判断に至らなかったものの、来年度以降は、「事務事業の廃止・見直し等の検討」ができるように、施策評価のシート内に属する事務事業の標記ができるようフォームの改正を検討されたい。

2 各論

1 - 1 : 「生態系に配慮した公園・緑地・水辺等空間の整備・管理」

【評価の前提についての意見】

「生態系」とは幅広い概念であり、流山市にとって大切な「森」や「里山」も「生態系」に含まれる。そのため、公園面積等以外にも、他の指標の設定を検討されたい。

市民一人当たりの公園面積について、近隣4市や県下の市との比較を加えられたい。また、人口増加の情報と合わせて、解説されたい。

1人当たりの公園面積について、里山や個人所有の山、ゴルフ場等が含まれているということが一般的に知られていないため、公園の定義を明記されたい。

グリーンチェーン認定率の最終目標80%は達成可能な数値であるのか、改めて検討されたい。また、達成予定はいつ頃なのかを明記されたい。

「市内の緑に満足している市民の割合」について、どのような「緑」に満足しているのかが明らかではない。表現をわかりやすくするか、もしくは公園、緑地、樹林というように「緑」を分類する等の工夫を検討されたい。

【評価結果についての意見】

グリーンチェーン等の行政の取り組みの内容及び成果が市民に伝わるように、わかりやすい記載を心がけていただきたい。

【今後の方向性についての意見】

今後の方向性が具体性に欠けるので、公園面積を近隣4市の平均以上を目指す、森や里山の現状を維持・保全・拡大する、といった具体的な方向性を提示されたい。

「管理費の増加を抑えるように努めていきたい」との記載があるが、指定管理者制度、市民との協働、自治会への包括委託等の具体的な取り組みを記載されたい。

グリーンチェーン戦略について、市民への浸透にむけて、制度の選択肢や優遇特典を増やす等、多方面への展開を検討されたい。

2 - 3 : 「自然災害・都市災害への備えと予防」

【評価の前提についての意見】

施策の成果指標「消防力の基準に対する充足率」や「自主防災組織の組織率」等、市の努力だけでは改善が困難な成果指標が散見される。例えば、自主防災組織については、市としては自治会に対して自主防災組織を組織するための啓蒙活動を実施していることを考慮し、自治会数を指標算定の基礎とするなど、市の努力が成果指標に反映されるような成果指標を選択するよう検討されたい。

外部環境の変化によって数値が揺れ動く指標が設定されているため、業務上取得できるデータを指標として加えられないか検討されたい。

個別施策01の成果指標「避難所の充足率」の目標値・実績値について、地域防災計画の見直しが行われたのであれば、数値の見直しを検討されたい。

個別施策03の評価の中で、火災発生後到着時間の記載をしてはどうか。

個別施策04の「火災予防の促進」の意図として掲げられている「火災を発生させない」等、達成が著しく困難な目標が設定されている項目がある。達成可能な目標でないといふ未達成の報告しかできず、職員のモチベーションがあがらないと思われるため、「火災報知機の設置率」等の、より具体的で達成可能な目標の設定を検討されたい。

「施策の目標値の根拠」の項目において、文中に「...したい」との表現が散見されるが、「改革改善の方向」の項目で記載するべきであるため、改善されたい。

【評価結果についての意見】

消防力について、人口増加に伴う対応の遅れが課題であると聴取したが、

評価シートの施策の課題認識欄においては、その対策として庁舎の建て替え等が記載されており、課題と対策の整合性がとれていないため、課題に整合した対策を記載するよう検討されたい。

救急救命士の充足について、人口増加に伴い充足が必要となったとのことであるが、この点について、人口の増加に伴い、どのような配置が必要となったかなどを明確にされたい。

個別施策01の成果指標について、数値だけに着目した場合、避難所は必要以上に確保されているのに対し、防災備蓄品については不十分であると読み取ることができ、市の施策推進がアンバランスなものであるとの誤解を与えてしまう恐れがある。よって、「流通備蓄を進めている」といったコメントを加える等、表示の工夫をされたい。

【今後の方向性についての意見】

自主防災組織の組織率について、成果指標の目標値と実績値とが大きく乖離しているにも関わらず、改革改善の方向が具体的に示されていない。学校区等のより広域的な区域に働きかける等、具体的かつ実効性のある対策を検討されたい。

施策の目的が、通常の消防庁指針の消防力や救急救命士の充足のみを対象としているが、流山市特有の自然や都市災害を想定した、計画的防災都市づくりの視点を管理シートに反映されたい。

3 - 1 : 「いつでも、どこでも、誰もがができる生涯学習の推進」

【評価の前提についての意見】

成果指標が定量的なものに偏っているため、定性的な観点なものについても充実されたい。

目標設定にあたっては、市民全体を対象とするのではなく、まず市民を階層分けして、それぞれの層に対してどうなってほしいのかを明確にすることを検討されたい。

【評価結果についての意見】

目標の達成・未達成や課題の記載にあたっては、数量的に捉えにくい性質の施策であることを配慮して、定性面を含めた記載を検討されたい。

目標値達成・未達成について、H21年度の44.6%という数値を根拠として目標達成と評価しているが、もう少し多面的な観点で評価した方が良いのではないか。

施策に対する事務事業の貢献度について、施設の開設等で参加者が増加したと評価しているが、施設ごとの実績内訳の明示を加えられたい。

施策目標の達成に対する貢献を示す指標として、講座終了後における「流山史跡の会」といった団体の発足数を紹介されたい。また、講座のクオリティに関する評価結果について、利用者のリピーター率や、講座を通して得た市民の知識がしっかりと地域に還元されているか等の記載を検討されたい。

講座ごとにアンケートを取り、分析をし、それを評価に反映すべきである。この施策については、市民の声が聞きやすい事業なので、もっと市民の声を聞き、聞いた結果はどうであったかを評価表等に示すことを検討されたい。

【今後の方向性についての意見】

各種「講座」「講演」の具体的方向、「知の循環」の具体的イメージ及びその達成方法の記述が抽象的であるので、どのように達成するのか等の具体的な記述を検討されたい。

「市民ニーズを的確に捉えて」という記載があるが、どのような講座がよいのか等の市民ニーズを、どのような方法で捉えていくのか、具体的に示されたい。

4 - 1 : 「安心して子どもが健やかに生まれ育つ環境づくり」

【評価の前提についての意見】

待機児童数については、今後の経済環境で大きく変動することが想定さ

れるので、待機児童の即時解消の為、目標値を“ 0 ”とすべきである。

自治会、子育てサークルなどの子育て活動に参加した保護者の割合といったソフト面の実態についても検証されたい。

「子育てがしやすいまちだと思ふ保護者の割合」については、最も重要な指標であるため、一番目に掲載するよう改められたい。

児童虐待相談件数は異質の指標であり、子ども家庭課の範疇を超えた社会問題である。そのため、当該施策の成果指標に馴染むものかどうか充分検証されたい。

【評価結果についての意見】

説明が丁寧である点は良いが、長文を避けて簡潔明瞭な記載に留意されたい。

近隣他市との比較が数値のみの比較になっているが、それを踏まえて流山市の現状をどのように認識しているかについてのコメント等を記載されたい。

ファミリーサポートセンターの利用回数が21年度のみ減少していることについて、現状把握及び原因分析を十分に実施されたい。

「流山市は子育てがしやすいまちだと思ふ保護者の割合」という指標について、満足している51.6%以外の、評価されていない理由についての分析が必要である。具体的には、どのような属性の市民が評価していないのか、どのような面について評価していないのか、実態を把握するとともに原因分析を実施されたい。

【今後の方向性についての意見】

国の施策案を詳細に記載しているが、流山市独自の意向を中心に記載されたい。

今後の方向性を検討するにあたっては、人口増加の年齢別の内訳も考慮する必要がある。

市民のニーズについては、「～と思われる」「～と想定される」と行政側の推測といった記載するよりは、まちづくり達成度アンケートの自由意見欄に寄せられた意見を例に記載するように改められたい。

5 - 1 : 「商業の拠点づくりと地域密着型サービスの強化」

【評価の前提についての意見】

この施策の名称から成果指標として、売上高や来客数を示すことが不可欠。全店の数値把握が理想だが、少なくともイベント開催時に参加した店舗の来店者数や一店舗あたり売上等を利用されることを検討されたい。

予め参加店には、情報提供が条件として伝えることとする。

市内の商店街店舗数は、商店街に加盟している店舗数なので、正確な店舗数とは言えないので、商工会議所からの資料に頼らず、独自にデータ収集されたい。

商店会団体数の目標値が 17 となっているが、根拠が不明確である。また、商店会店舗数の目標値 503 は実現可能な水準であるのか。成果指標は、市の努力により達成できるものとすることを検討されたい。

「賑わい」に特化した指標の設定も検討されたい。

【評価結果についての意見】

指標については、環境変化や経済の変化に合わせてなど、必要に応じて目標値を変更されることを検討されたい。

貢献度の高い事務事業について、「アンテナショップが商店街の活性化に資した」とあるが、来客数や売上等の客観的なデータ・収支の状況等を示すことを検討されたい。

「既存商店街の特性」は何なのか、「市民の生活基盤としての魅力ある商店街」とはどういうものなのか等を具体的に示されたい。

大型店が進出してくれば、地域の小売店は衰退する可能性が高く、この両者を同時に目標とすることは困難なのではないか。

【今後の方向性についての意見】

個別施策 01「商業環境の整備」において、「商店会などの自主性、独自性を生かしながら、側面的な支援を行っていく」という記載があるが、より具体的に説明することを検討されたい。

6 - 2 : 「健全で効率的な行財政運営」

【評価の前提についての意見】

市民サービスの水準を示す指標を成果指標として追加することを検討されたい。

成果指標について、一般会計だけではなく、特別会計分、水道事業分も含めて表示することを検討されたい。

個別施策 03【適正な財産管理と効率的な運用】について、目標を具体的に設定し、未利用動産、不動産の売却（一般競争入札による）や土地の貸付の詳細を示すことを検討されたい。

【評価結果についての意見】

個別施策 05【適正な人員配置と管理】について、職員の仕事に対する不満（モチベーションの低下）の具体的な要因を記述することを検討されたい。

個別施策が施策全体にもたらす影響と効果について、評価シートに明記されていない。個別施策が、「施策意図」である「財源の確保」にどのような形で寄与しているのかを示すことを検討されたい。

説明文に専門用語が多い。一般市民に理解しやすいように、市民感覚ですぐ理解できるような表現にする事を検討されたい。

【今後の方向性についての意見】

改革改善の方向性として、協議会や審議会などの市民参加型の場を多く持っているのだから、そうした市民の声を広く反映させる努力をしていくといったニュアンスを取り入れることを検討されたい。